

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400069		
法人名	医療法人 社団慈生会		
事業所名	グループホーム華房福栄2号館		
所在地	山口県萩市大字福井下3507番地11		
自己評価作成日	平成25年3月28日	評価結果市町受理日	平成25年9月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 25年 4月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、それぞれの有資格者であり、専門性を活かして、入居者様お一人ひとりに対して、いつも柔軟な対応が出来るように心掛けている。ご本人様の思いを傾聴し、共感することで、必要な支援を見出し、理念とする「自立支援」に繋げている。施設内外の研修の機会を設け、常にスキルアップを目指し、サービスの質の向上に繋げるよう努力している。又、法人である医療機関とも連携を図り、健康面や、精神面での不安を軽減することで、ご本人や、ご家族様にも安心して頂けるよう支援している。

事業所は自治会に加入しておられ、地域の集会や草刈り作業などに職員が参加されて、地域の行事などの情報を得られるように努められたり、2ヶ月に1回発行しておられる、三施設合同(小規模多機能居宅介護施設、グループホーム2施設)の事業所だよりを地区内全戸(30戸)に配布されて事業所の行事や取り組みについて知らされておられ、地域とのつながりが深まるように取り組まれています。利用者が地域の行事に参加されたり、来訪されるボランティアや保育園児、大学生などとの交流を楽しめるように支援しておられます。管理者が作成されたオリジナルリハビリ体操(きよしのソーラン節)に合わせて体操をされたり、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや、活躍できる場面をたくさんつくられて、内容や方法を工夫されて、利用者が張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の玄関、事業所内に掲示すると共に職員の名札の裏に記載し、職員全体でミーティング時に理念の共有を図り、理念である自立支援の実践に繋がるように努めている。	「家庭的な生活環境のなか残存能力を活かした尊厳ある生活をしていただき、地域社会とのつながりを大切にし、楽しみ、安心感を提供します。」という地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内の掲示や、名札の中に携帯し、ミーティング時の話し合いや、個人面談の時に、理念の確認を行い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流が難しいが、地域活動の情報に努め、地域の道の駅のイベントに出向いたり、市が開催する七夕飾りに見学に行く等している。地域のボランティアの催し物は小規模施設より声を掛けてもらい参加している。	自治会に加入し、地域の集会や草刈り作業に職員が参加し、地域の行事などの情報を得るよう努めている。2ヶ月に1回発行している三施設合同(小規模多機能居宅介護施設、グループホーム2施設)の事業所便りを地区(30戸)に配布し、事業所の行事や取り組みについて知らせている。七夕祭りの見学や地域にある道の駅のイベントなど地域行事に利用者が参加できるように支援している。同施設内にある小規模多機能居宅介護施設に来訪する保育園児の遊戯を見たり、肩たたきをしてもらうなどの交流をする他、踊りやカラオケ、化粧教室、大学生のダンスなどのボランティアの来訪があり、利用者は交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には、2ヶ月毎に事業所便りを配布し、施設の利用状況、活動報告を掲載している。運営推進会議等でも事業所で出来る物を提案し、意見を求めるもののなかなか地域に向けての支援が出来ていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者より評価の意義を説明し、全職員が自己評価表に記載し、全体で検討しまとめる。評価の過程を通じて日々のケアの振り返りや、見直しを今後のケアに活かせるよう取り組んでいる。	評価の意義について理解した上で、項目を分担して全職員で自己評価に取り組んでいる。内部研修の計画的な取り組みや外部研修受講者の増員の他、レクリエーション委員会を立ち上げて利用者の活躍の場面作りをするなど自己評価を活かして取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用者の状況報告、行事報告、意見要望等を聞き、サービスに反映できるよう取り組んでいる。又、年2回消防関係者に参加頂き、避難訓練への地域の参加の呼びかけや、災害時の避難等についての意見交換など行っている。	支所担当課職員、行政推進委員、保健師、民生委員、在宅介護支援センター職員、消防署分室員、消防団員、家族のメンバーで2ヶ月に1回3施設合同で開催している。事業所の利用状況や行事、活動内容、感染症対策などの報告をし、意見交換をしている。地域の行事についての紹介や火災時の避難経路、地域の人の訓練への参加などの意見や提案をサービスに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用状況の報告や、介護保険の更新の手続き時の連絡等、協力を頂いている。毎月1回、地域ケア会議にて状況報告を行い、日常の相談にも応じて貰う等、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議の時や、支所の窓口に出向いて、報告や相談をする他、月1回支所である地域ケア会議に参加して情報交換するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、法人の委員会、研修に参加し、抑制や拘束の無いケアに職員全体で取り組んでいる。入居者様の動向や原因を把握し、散歩、ドライブ等で気分転換を試みる。玄関には、防犯ブザーを取付け、施錠しないなど工夫に努めている。	マニュアルがあり、法人の委員会や研修に参加した職員が復命研修をして、全職員が身体拘束について正しく理解している。玄関の施錠を含め、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に委員会があり、施設からも委員として参加している。研修にも参加し、職員の全体会議で報告している。日頃より入居者様を観察し、見過ごされことなく「絶対にあってはならないこと」として、職員全体がケアにあたっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、権利擁護の必要な入居者様はいらっしゃらないが、後見人制度等の研修にも参加し、制度について職員全体が周知できるようにしていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要説明事項に沿いながら、当事業所で出来ること、出来ないことの説明をしている。重度化、看取りについての対応、医療機関との連携体制についての説明をし、家族の理解を得ている。改定時、書面で家族に報告し、説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料の支払い時や、面会時、運営推進会議などで、家族からの意見や要望が聞けるような体制を取っている。自由に意見が聞けるよう意見箱を設置している。苦情があった場合は職員間で話し合い、対応している。玄関に相談窓口及び外部機関を明示、苦情処理の手続きも定めている。	意見箱の設置の他、相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、家族に周知している。運営推進会議時に面会時、利用料の支払い時などに家族から意見や要望を聞いている。職員の言葉づかいについての家族からの苦情について苦情提言受付書に記録し、全職員で反省文を書き、話し合って共有し、家族に報告し、改善に努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全体会議、朝夕のカンファレンスで、広く現場の声を情報収集している。管理者は職員一人ひとりとの面談を設ける等、意見が気軽に出来るように心掛けている。	朝、夕の申し送り時や、月1回の職員会議、年1回の個人面談時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で、管理者や副管理者が意見を聞いている。記録様式や居室の脱臭方法についてなど職員の意見を活かしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も常に現場に出て、勤務状態の把握、職員の資格習得に向けた支援、環境づくりに努めている。健康診断は年2回実施されており、心身の体調管理も配慮されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必要時には参加、場合によってはDVD研修の形を取っている。事業所内の研修は、毎月の職員会議で、各職員がテーマを担当し学習機会を設けている。外部研修は、勤務の一環として参加し、受講者は研修後、復命している。	外部研修の情報を職員に伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は内部研修で復命研修をしている。法人研修は、身体拘束、接遇、感染症等について実施し、必要時に職員は参加している。内部研修は年間計画を立て、テーマ(接遇、誤嚥時の対応、転倒予防、感染症等)を決めて、職員会議の中で30分程度、管理者、看護師、計画作成担当者が講師を務め、実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修に参加することで、グループワークを通し、各施設が抱える問題点などを話し合い、交流する。機会はあるが、ネットワーク作りには至っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を解消するため、事前に見学して頂く等している。又、入居者様お一人に担当制で職員を配置し、入居者様の想いを充分お聞きするなど、安心感を持っていただけるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の想いと家族の想い、意見の食い違いなどしっかり聞き取り、十分な説明を行い、入居者様の最善な方法を共に考え、信頼関係が築けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や、家族の想いを充分にお聞きし、状況を見極め、必要とする支援を介護支援専門員を中心とし主治医、地域包括支援センター等とも連携し、他のサービス利用の検討にも努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な生活環境の中で、出来ることを見極めながら、役割分担をし、協力し合いながら出来るだけ自立に向けての環境づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料支払い時、面会時に時間を作って頂き、入居者様の状況、ご要望をお聞きし、支援していくうえで何が必要なのか相談し、協力を得るなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂き、なじみの美容院や、家族と一緒に食事に出掛けられることもある。又、日常会話の中から、なじみの場所、自宅付近のドライブに出掛けたりしている。	友人、知人の来訪や通院時に自宅周辺をドライブする他、家族の協力を得て、行きつけの美容院の利用や、外食など馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人ひとりのレベルや、性格を充分理解したうえで対応している。又、トラブルが起こった時には、職員が介入し、関係修繕に努める。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に移行されたり、他施設に入所される入居者様に対し、情報提供を行い、次のサービスがスムーズに受けられるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを作成し、入居者様の生活歴を十分に理解し、日頃の関わりの中で入居者様の言葉や、状況を記録し、思いや意向を把握するよう心掛けている。又、家族の協力が必要な時は家族に説明し、協力をお願いすることもある。	入居前の施設からのフェースシートで情報を得る他、家族からの聞き取りや日常の関わりの中での利用者の様子、言葉などを気ケース記録に記録し、共有しているが、利用者一人ひとりの思いや希望、意向等の十分な把握までには至っていない。	・思いや意向の把握方法の検討
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、他の介護保険事業所からのフェースシートにより生活歴や趣味、職歴等の情報を得ている。家族や知人の面会時にも出来るだけ情報を収集し、これまでの環境に近づけようと努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の食事の様子、摂取量、睡眠、排せつ状況、実施したサービス項目、入居者様の言葉。体調の変化をケース記録、ケア記録に記入し、個別ケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様毎に職員の担当制を設け、計画書作成者と共に、入居者様、家族方の要望、意見をお聞きしたり、日常生活の中での言動を参考にしながら介護計画を立てている。又、1か月毎に、評価、観察を記入し、モニタリングを行う。	利用者の思いや家族の意向、医師の意見などを参考にして、利用者を担当する職員と計画作成担当者、管理者を中心に話し合い、介護計画を作成している。実施チェック表に記録し、3ヶ月に1回モニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、ミーティングで話し合って見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の様子をケア記録に、行動や、反応、言動、対応方法をケース記録に記入するよう指導している。又、朝夕のカンファレンス時に報告し、職員間での情報を共有しながら、3カ月ごとに介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天候の良い日には、ドライブ等に出掛けたり、定期健診以外にも体調不良時には、医療機関に受診したりして、不安の解消をしている。又、本人の状況を充分に考慮し、柔軟な対応に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容店の利用、買い物に出掛けたりしている。又、防火訓練や、施設の行事等に参加して頂けるような体制を構築しながら、地域に馴染めるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望、同意を得て、協力医療機関がかかりつけ医となり、通院介助を行っている。他科受診が必要な時には、主治医に紹介状を書いて頂いたり、家族にご協力を得ながら、適切な医療が受けられるよう配慮している。	協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診の他、利用者の状態に変化があった時や緊急時の受診の支援をし、かかりつけ医、事業所、家族で情報を共有している。他科受診は家族の協力を得て受診している。職員として看護職を確保し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間の記録、朝夕の申し送り時に状況の変化を報告し、看護職だけでなく、介護職とも対応法を検討し、場合によっては主治医とも相談しながら適切に対応が行われるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の医療機関とも連携しており、家族は安心されている。面会時や家族からの情報収集に努め、医療機関や家族、入居者様、事業所を交え十分に検討し、今後の方針を決めていく。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、重度化した場合の事業所の方針を入居者様、ご家族に説明している。重度化した場合、医療的な処置が必要となった場合、早い段階から本人、家族、主治医とも連絡し、法人の医療機関とも連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時に事業所の方針を家族に伝えている。実際に重度化した場合は、主治医と連携し、家族、職員、関係者とその都度話し合い、方針を共有し、移設も含めて支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告、ヒヤリ・ハット報告書を整備し、法人のリスクマネジメント委員会へ参加している。一人ひとりの状況を観察し、職員全体で改善策を検討し事故防止に取り組んでいる。全職員対象の応急手当や、初期対応の訓練は、定期的実施するまでには至っていないが、今年度の研修予定に組み込んでいく	ヒヤリハット、事故報告に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、月1回ある法人の「医療、安全管理委員会」で検討し、助言を得て、全職員で話し合い共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の研修は実施しているが、全職員が定期的な訓練を実施するまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルがあり、年2回、地域の消防関係の方にも参加頂き、夜間想定避難訓練や、消火器の取り扱いの研修をしている。運営推進会議にも定期的に参加して頂き、協力頂けるようお願いしている。	年2回、消防署分室の協力を得て、火災時や夜間想定訓練を3施設合同で実施している。地域から消防団員や行政推進委員が参加している。運営推進会議で災害時の避難経路や地域との協力体制について意見交換をしているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人主催の接遇研修に参加し、日々の関わりの中で入居者様お一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉使いや、声掛けには気をつけている。不適切な対応があった場合は管理者が注意するなど対応を行っている。	法人研修で学んだり、全体会議で話し合い、一人ひとりの人権の尊重とプライバシーの確保に努めている。利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、尊厳を無視したり、傷つけたり、プライバシーを損ねたりすることがないように、日ごろから言葉かけや対応に配慮している。不適切な事があれば管理者が指導し、徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と共に生活し、行動することでコミュニケーションを取りながら、信頼関係が持てるよう努めている。言語障害や、聴力障害のある入居者様に対しては、非言語的表現を取り入れて、入居者様の想いが聞き取れるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分等を十分に配慮し、入居者様の思いを尊重し、散歩や、ドライブ、レクリエーション等、柔軟な対応に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の利用は、馴染みのところに行けるよう、ご家族に協力を仰ぎながら実施している。又、地域の理美容院に要望があれば取りまとめ来訪してもらっている。又、出掛けられる時、誕生会、ボランティアによるおしゃれスクール等開催、ご本人に合ったおしゃれが出来るようアドバイスしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前事業所で調理し提供していたが、現在は食材提供サービスを通じての食事の提供となっているが、時には家族からの差し入れや、敷地内で収集したものや、季節感のある食材を用い提供することもある。職員は同テーブルで会話を交えて食事し、後片付けや、お盆拭き、下膳など出来ることを職員と共にしている。	三食とも「調理済み食材サービス」を利用しての配食で、事業所ではご飯を炊いたり、食材の湯煎や揚げたり、自然解凍などをして盛り付けを行い提供している。利用者はテーブル拭きやお盆拭き、下膳、食器洗いなどできることをしている。三施設合同の菜園で採れた野菜や敷地内で採れた山菜(つくし、ワラビ、筍など)を利用して季節感のある食事づくりを利用者と一緒にもしている。利用者と職員は、同じ食卓を囲み、職員は弁当持参で一緒に会話しながら食事をし、利用者が食事を楽しめるように支援している。外食の支援もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様、お一人ひとりに合わせた食事形態や、その日の体調を考慮し食事を調整している。法人の医療機関とも連携をとり、飲水量、栄養指導、食事制限などの指導を受けている。又、水分摂取量、食事摂取状況の記録を残している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄の声掛け、介助を行い残渣物のチェック、義歯の確認を行い、口腔内の清潔を保っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状況に合わせ、紙パンツ、尿取りパットを使用している。入居者様お一人ひとりの排泄つチェック表を活用し、排泄つパターンを把握し、声掛け、トイレ誘導を行いトイレでの排泄つを心掛けている。又、汚染時には、プライバシーに配慮しながら交換を行い、清潔保持に努めている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を確認し、散歩、体操、適度な運動、水分摂取の促しをするなど、穏やかな便通があるようケアをしている。排便困難な入居者様に対しては、主治医に指示を仰いでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の入浴を実施しており、羞恥心やプライバシー保護に配慮している。入浴は一日おきに14時から16時頃までとし、その日の体調や、汚染時には調整を行い柔軟な対応を心掛けている。嫌がる場合はタイミングを図りながら再度声を掛けたり、翌日に変更する等の工夫をしている。	入浴は1日おきに14時から16時まで可能であり、利用者の体調や希望に合わせてゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には、日にちを変えたり、時間をずらしたり、タイミングや声かけに工夫して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調設備、換気機能、加湿器等を利用し、室温や、湿度を快適に保ち、ソファを置き、休憩がいつでも取れるよう整備したり、個室で気持ち良く過ごせるように環境の整備をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬状況を薬局より頂き、個人ファイルに綴じ込み、内容が一望できるようにしている。個人に手渡し、服薬を確認、又は、服薬の介助をしている。服薬変更時は状況を観察し、状況の変化を報告し、連携を取っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴より趣味、嗜好を考慮し、日常生活の中でテレビ視聴、新聞や読書、体操、風船バレー、歌唱、掃除やモップ掛け、洗濯もの干し、洗濯ものたたみ等、入居者様が活躍出来る場面を作り、入居者様お一人ひとりに楽しみ毎、気分転換が出来るように支援している。	テレビ視聴(朝の連続ドラマ、歌番組、水戸黄門、サスペンスなど)やDYD(氷川きよし)、新聞や雑誌を読む、管理者作成オリジナルリハビリ体操(きよしのソーラン節)、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、絵合わせ、計算ドリル、ジグソーパズル、カルタ、トランプ、風船バレー、カラオケ、ボランティア(踊り、カラオケ、化粧教室)との交流、保育園児との交流、餅つきなどの季節行事、壁飾りづくり、玉入れ袋づくり、ゴミ袋づくり、編み物、雑巾づくり、掃除、モップかけ、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々が過ごせるように支援しておられます。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調や、動向などに合わせて近隣の散歩、ドライブ、地域のイベントにも出掛けている。受診後には自宅周辺を通ったり、市内をドライブするなど戸外に出掛けるように支援している。又、家族の協力を得て、外食や、馴染の美容院にも行っている。	散歩や買い物、受診時のドライブ、季節の花見(桜、菜の花、梅)、七夕祭りの見物やリング狩りなど戸外に出かけられよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と相談し、預りの同意を得て預り金を保管している。外出や出掛ける際、見守りの元本人が支払できるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お一人ひとりの能力に合わせて、電話の取次ぎや、掛け方等、支援している。現在、手紙のやり取りを希望される方はいないが、希望があるときには、助言や、差し出す支援を行う。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、南側の窓が大きく、自然の明かりが射し込み、明るく換気の調整も出来る。玄関を入ると同一線上に、居室、トイレ、浴室、食堂があり。テーブル、ソファ、テレビが配置しており、入居者様が、ゆっくりとくつろげるように工夫してある。	玄関を入るとすぐ、広いフロアになっており、大きな窓からは自然の光が差し込んで明るく、窓から山や田畑の四季の移り変わりを眺めることができる。フロアにはテレビやテーブル、椅子、ソファなどが配置しており、季節の花を生けたり、壁面に、季節に合わせた利用者と一緒に作った貼り絵や絵画を飾り、季節感を感じることができるよう工夫し、温度、湿度、換気、音などに配慮して利用者が居心地よく過ごせるように支援しています。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを置き、それぞれが好きな場所でくつろげるようにしている。テーブルの配置、席の位置等、気の合う入居者様同士が、楽しく語られるように配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、これまで使われている馴染の物、使い慣れたものを持ち込んで頂けるようお願いしている。又、不穏状態を和らげるため、ご家族の写真、絵、手紙等を持参して頂き、掲示したりしている。	和ダンス、小テーブル、椅子、テレビ、衣装ケース、衣装掛け、寝具、化粧箱など、使い慣れた物や好みのものを持ち込み、壁面に備え付けてあるボードにカレンダーや家族の写真、自分の作品(ちぎり絵、ぬり絵、折り紙)誕生日の色紙や七夕の短冊などを飾り、落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様お一人ひとりの行動や、身体機能、生活環境、能力に合わせてながら、居住環境を工夫し安全の確保を充分考慮した上、自立支援を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： グループホーム華房福栄2号館

作成日： 平成 25年 8月 28日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24	思いや、意向の把握方法の検討	その人らしい生活を送ることが出来る	・センター方式を取り入れることで、思いや、意向を把握しながら、その人らしい生活を送って頂けるように支援していく	実施中
2	35	全職員を対象にした応急手当や、初期対応の定期的な訓練の実施	急変や、事故に備えて、応急手当、初期対応の訓練をすることで、実践力を身につける	・施設内で起こりうる事故に対しての定期的な訓練の実施(看護師を主体に年間の研修に組み込む)	12ヶ月
3	36	地域の協力体制の構築	地域住民の皆様に施設の性質を理解して頂き、災害時の協力を仰ぐ	・施設だよりの配布の継続 ・住民の皆様に理解して頂ける行事のお知らせ ・運営推進会議等で、災害時に協力して頂ける体制を検討していく	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。